

【様式①】令和5年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 芥見小学校

校長名 山下 敦子

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	「チーム学校」として、保護者や地域の願いを踏まえ、職員が学び合って指導力を高め、自己肯定感につながる「できそう、わかった」の授業実践に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの「確かな学力を身に付けよう」と取り組んでいる」ではあてはまる、だいたいあてはまるが93%であった。ICT活用をより活発に実践するよう職員が互いに研修を続けてきたこと、反復練習をしたり、授業の中で対話的な交流を進めたりすることで学びが深まるように授業改善に努め、一人一人がより授業が「わかる」「楽しい」と思えるように工夫してきた。 英語教育においては、1年生から6年生までのカリキュラムを見直し、英語が楽しいと思える授業作りに入力した。 ICTを活用し、興味を持ったことを調べたり、調べたりしたことを、相手に示しながら英語で説明することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力の落ちこぼれがないような指導方針であるように思う。「できそう、わかった」の授業を進めている。何事も楽しいと思っで行うことは大切である。 なるべく少人数の授業ができると、より手厚い指導ができると思うが、なかなか難しいだろうか。 DXの推進をしっかりと進めてほしい。 英語の授業では、子どもたちがALTの先生と楽しそうに会話をしていた。英語を話すことに抵抗感がなくなる雰囲気づくりや楽しい活動を取り入れながら行っているのだと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの「授業が楽しくわかりやすい」では84%であった。「わかる」「楽しい」授業をめざしつつ、学びを子どもたち自身で深め合い、創意工夫しながら活動できるよう授業改善を工夫していく。 ICT活用や地域の方の協力により、体験的な学習が少しずつ増えてきているので、実感を伴う学びをこれからも継続していく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	地域と学校の協働の在り方を模索しつつ、指導体制の確立と地域人材の活用により、コミュニティ・スクールの機能の充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 少しずつ地域行事も再開され、参加する機会も増えてきた。 地域の方の協力を得ながら、体験学習など教科以外の活動でも子ども達が創意工夫し、進んで取り組める活動を価値づけた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験学習をしっかりと取り組んでほしい。鮎の放流や農協との農業体験など、地域に根差した学びの場がありよい。 校外学習をととても楽しみにしている。学校外での学習や体験活動が今後も増えていくと子ども達の経験が豊かになってよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人材をさらに生かしてキャリア教育つなげていく。 幼保から小学校へ、小学校から中学校へとスムーズにスタートできるようこれからも連携を密にして進んで行きたい。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	同僚性の維持・向上を大切に、良質な情報交換と異なる視点からの交流を活性化させ、教職員のコミュニケーション力を高め、より子ども達と向き合うことを大切にすることであたたかい学校づくりに努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が安心して学校生活を送るために、日頃から教師間の情報交換をし、児童理解や指導方法等を話題にして指導力の向上を図ってきた。保護者アンケートの「豊かな心・思いやりの心をもった子どもを育てようとしている」ではあてはまる、だいたいあてはまるが95%であった。子ども達と向き合える心と時間に余裕をもつために、一人ひとりの働き方の見直しや工夫をしつつ取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が心に余裕をもって子どもと向き合っしてほしい。そのために、先生たちの時間的な余裕を確保してもらい、子ども達と話したり遊んだりすることを通じて社会性を教えてもらいたい。 クラブ活動の様子では、4～6年生の学年の隔たりを感じさせない優しい雰囲気活動していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの「子どもの気持ちや悩みを理解するよう取り組んでいる」では91%、「家庭や地域と連携して子どもの指導を行っている」では93%があてはまる、だいたいあてはまるであった。今後も、子ども一人ひとりの思いに寄り添っていき、職員間で情報を常に交流し、いじめの未然防止に努める。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	「命を守る訓練」「地域防災訓練への参加」で学年に応じた防災教育、登下校及び校内の安全教育を適切に進める。 「ここタン」アンケート、あのねポスト等からの情報収集、全職員による情報交流、教育相談等の素早い対応でいじめ防止に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの命に関わることは、地域、保護者と協力しながら今後も健康と安全を最優先していく。 防災訓練については、設定を変えたり、児童だけでなく職員に対しても知らず知らず実施するなど実践を意識した訓練を実施したことで、職員自身も様々な場合を想定して話し合いを行い、訓練に臨むことができた。 「ここタン」やアンケートを活用し、子ども達の悩みを早期発見、対応できるよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 命を守ること、命を大切にすることを教えていく上で、性教育も大切な要素だと思う。自分の生命のルーツを知ることで、人の命も大切にしたいと思えるのではないかな。 今年度は、通学路安全対策ワークショップが開かれ、通学路の危険箇所の見直しが行われ、地域と保護者など協力し合えた。今後も見守りの体制を続けて協力したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの命にかかわることは、日頃から地域、保護者を協力しながら健康安全を最優先にしていく。 次年度からバイパス工事が始まることを受け、今までの通学路の安全確認と見直しも進めていく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	効果的な教育を目指して、月一回の安全点検のほかに、日頃の点検の充実を図り、設備・備品等の再利用や修繕を進めて教育環境を整備する。	A	<ul style="list-style-type: none"> スマート連絡帳を活用した体調管理、家庭への通信配付に変わってきた。 施設が清潔に整えられている。どの児童も教材・備品が均等に使用でき、教育が受けられる環境づくりができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 廊下や室内に子ども達の作品があるのはよい。温かく感じられ、貼ってあるだけで違う。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に安全に生活できる環境づくりに心がけ、月1回の安全点検と速やかな対処を続けていく。 児童が主体的に活動できるよう見直しをもった計画をし、必要な等を整える。 一人ひとりを大切にしたい掲示を心がけていく。